

暮らす旅 京都 京都サロンで地球を憂う

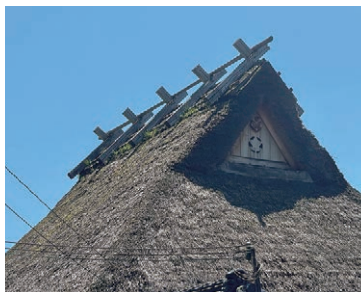
文写真 / 松岡伸吾(暮らす旅舎)



美山かやぶきの里には多くの茅葺き屋根の民家が残っている。春秋2回の一斉放水が人気だ。

先日「孤独のグルメ」の主演俳優が話題に出て、てっきり歳上だと思っていたら、自分よりよっぽど若いと知って驚いた。高齢者になれば、現役世代の人はほぼ間違いなく年下なのは当たり前だが、どうやら自分の思い込み年齢は五〇歳くらいで止まっているようだ。とはいえ今年の夏は暑過ぎで、体力の限界も感じた。

涼しい部屋で、ネットテレビやBSニュースを見て過ごした。世界各地で頻発する、山火事や洪水、そして地震。多くの災害が地表を襲った。温暖化恐るべしと思う。が、冷房の言い訳ではないが、地上の支配者として君臨してきた数万年の人類史など、五〇億歳の地球からすれば、風邪をひいたうちにも入らない小事かもしれない。



千木などの飾りに特徴がある入母屋造り。切妻には家紋と火除けの懸魚(けぎよ)が。



繁華な京都市内にある徳正寺。境内の一角に立つ藤森照信氏設計の茶室「矩庵」。

さて本題の京都は、前回予告した「森の京都」。

美山かやぶきの里のピザ屋で出会ったのは、日本に長年住んでいる米仏二人の外国人。超富裕層相手のツアー会社の人で、パング用の撮影に来たという。一組のゲストのために、ヘリで無人島に飛び、高級食材を使った料理が楽しめるようなバカンスを企画したりするそうだ。美山の古民家をどう料理してくれるのか。超富裕層は少数だが温暖化促進勢力には違いない。茅葺屋根を守るためにも、大金を落として欲しいもんだ。もちろん火廻要慎も忘れずに。

もう一つ紹介するのは市内の古刹、徳正寺。ここには藤森照信設計、前住職施工の茶室、矩庵がある。実は「京都はお茶で

きている」の書籍で取材したかったが、実現せず、今回ようやく念願叶って拝見できた。茶の師匠が、本堂で呈茶と対談をするというのでお邪魔した。

ここは茶柱探検隊の読者ならご存知の路上観察学会ゆかりの地で、暑い中、短い時間だったが体感できた。今も多彩な企画で文化を発信する京都サロンの役目を担っている。ぜひお寺のホームページを検索していただきたい。



呈茶は「く」がテーマ。室内には病に苦しんだ子規が死の床でつくった俳句が掛け軸に。



三又の栗の木が支える茶室は前住職が施工の多くを担った。室内には母である日本画家の秋野不矩氏の絵が掛かる。